

●シリーズ●わが町の文化財へ85

こくうそうまがいざう

世羅町重要文化財 宇根山虚空蔵磨崖仏

昭和59年5月15日指定

宇津戸宇根山の「西ノ山」の「虚空蔵」と呼ばれる岩山（所在地標高約63mの高地）に2体の磨崖仏が薄肉彫られています。「虚空蔵」とは、虚空蔵菩薩という廣大無辺の功德を包蔵しているという仏のことです。本来は本尊として磨崖仏が彫られていたか、堂の中に祀られていたとされていますが、現在は失われています。「磨崖仏」とは、岩壁に直接彫られた仏像のことです。



びしやもんでん
向つて左側の毘沙門天（全高92cm）

（右手に三叉戟（武器）を持ち、左手に宝塔をささげている、光背は二重光円です。）

右側の不動明王（全高84cm）

は、光背は火焰光背で右手に剣、左手に羅索を持っています。両磨崖仏は、像容（仏の形）や持ち物の形式等からみて室町時代末期から江戸時代前期頃の作と推定されています。※作者は不明

なお、見学について制限はありませんが、山中のため案内者が必要です。

●シリーズ●わが町の文化財へ86

世羅町史跡 鳳林寺跡

昭和56年7月24日指定

江戸時代の地誌「国郡志書出帳」の長田村の記述によると、「吉祥寺が、享保17年（一七三二）の春、上津田村に引越した跡に、3間半に2間半の庵を建立し『鳳林山』と唱えた。」と記してあります（口語訳）。また、吉祥寺文書「鳳林山実録」（元文3年・一七三八）によると、「治承4年の春、峰を越え谷を伝ひて備後国に至りし時、俄かに聖像重くして磐石の如く覚えしかば、円覚、奇異の思ひして、先づ路辺に憩ひ、この所の名を問ふに『山中の庄梅林』と言へり。この地たるや、里々遙かに隔たり、行人征馬の通路もまれなれば、安静にして願行に便ありとて、一字を草創し、聖像を本尊として初めて鳳林山吉祥寺と号す。」と書かれています。



なお、僧円覚は、奈良興福寺の院主であり、前述のとおり備後国世羅郡長田村篠村谷へ逃れて来たと言えられています。

現在の堂は、明治23年（一八九三）に再建したもので、堂内には円覚の位牌があり、「当寺鳳林山建大法円覚上座覚霊」「建久元年（一一九〇）庚戌八月朔日寂」という銘があります。付近の山中に、室町時代前期の宝篋印塔や五輪塔があり、鳳林寺に関わる墓地であったと推定されています。